たけうまファンド

2022年6月30日基準

運用実績

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
2.0%	-7.0%	-9.1%	-3.2%	-9.1%	1264.6%

※ 証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。
※ 過去の実績データがない期間においては数字を未記載としています。

ポートフォリオ構成

実質株式保有比率		77.4%
	国内株式	54.7%
	海外株式	22.7%
現金（円・ドル）		22.6%

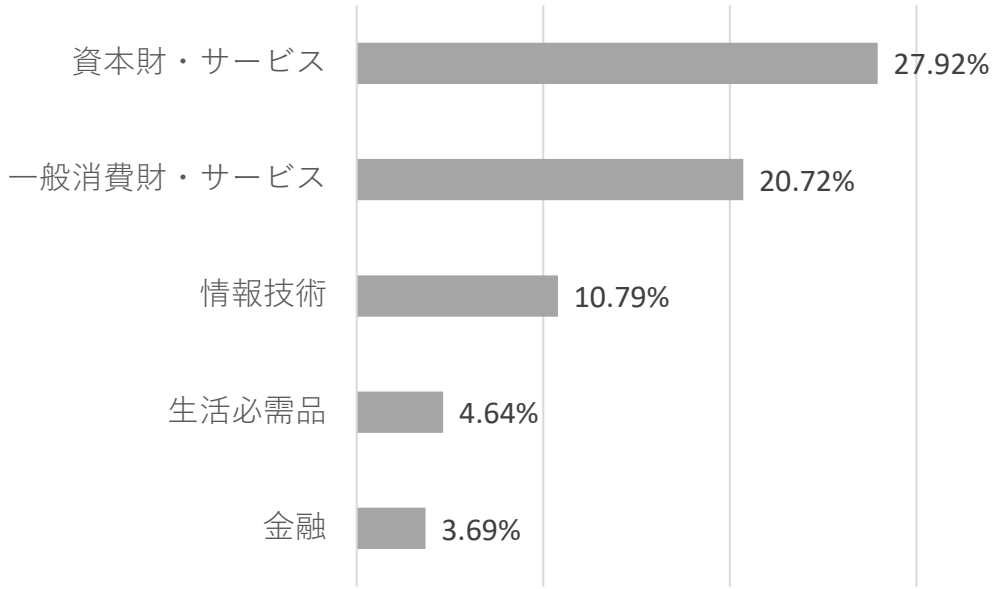
※比率は証券口座の現在の資産残価に対する割合

分配実績

設定来累計分配金　0円

※上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。
※成長ないので分配なし。

業種別組み入れ比率



※ 業種はGICS（世界産業分類基準）によるものです。
※ 優待株は含まず。

たけうまファンド

2022年6月30日基準

たけうまファンドの組み入れ銘柄の状況

組入上位10銘柄

	銘柄名	比率 業種	銘柄紹介
1	ウルトラファブリックスHD（4235）	17.17% 一般消費財	湿式合皮製造販売。従来からのSDGs加速にコロナ後の感染対策、テレワーク需要で成長一段階上へ。
2	ドラフト（5070）	9.50% 資本財	オフィスやSC、都市開発のデザイン。社長や優秀な人材が競争力。新しい生活様式での需要拡大期待。
3	シンメンテHD（6086）	8.13% 資本財	飲食店厨房メンテからコロナ禍経て他業種へも拡大。人手不足と感染対策とコスト削減を解決する。
4	ServiceNow, Inc.（NOW）	7.29% 情報技術	ITSM主力のSaaS。業務の自動化、DXは生産性向上に資するため人手不足・高インフレ下でも需要大。
5	オカダアイヨン（6294）	6.90% 資本財	解体用アタッチメント。建替え、電炉、バイオマスなどで市場拡大。今期が設備投資のピーク。
6	The Procter & Gamble Company（PG）	4.64% 生活必需品	パンパース等超有名ブランド多数。店舗棚を確保できる強力なブランドだけ残す戦略で更に強くなった。
7	MSCI Inc.（MSCI）	3.69% 金融	指数を開発販売。株価指数の提供だけにとどまらず、ESGやファクター含めマルチアセット市場狙う。
8	Tapestry, Inc.（TPR）	3.55% 一般消費財	コーチやケイトスペード擁する婦人アパレル製造販売。経営危機から復活再生中。コロナ明けに期待。
9	CrowdStrike Holdings, Inc.（CRWD）	3.50% 情報技術	クラウドからスタートしたエンドポイントセキュリティ企業。顧客のクロスセル進み高い営業効率。
10	ベネフィット・ワン（2412）	3.42% 資本財	福利厚生アウトソーシング。既存客法人への経費精算などHR分野でのアップセルを狙う。

※ 上記は組入銘柄の紹介を目的としてたけうまが作成しており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。

たけうまファンド

2022年6月30日基準

ファンドおよびマーケットへのコメント

6月も大荒れのマーケットでした。当ファンドは辛うじてプラスの成績で着地できましたが、お世辞にもうまく対応できたとは言い難い状況が続いています。下半期こそは挽回できるよう取り組んでまいります。

さて、6月の大きな動きとしては予想を超える大きな上昇を見せたCPIを受けて「5月CPIでピークの兆しが見えてくる」という前提でホールドを続けていた米国株をだいたい3分の1ほど売却しました。6月はそこが底だったわけですが、値動きではなくシナリオに忠実に売買できたのは今後も運用を続けていく上で正しい投資判断だったと思っています。まぁそのシナリオがダメだったら全部ダメなのはその通りですが。

その後は一瞬よかったのですが、市場の想定通りの利上げが行われパウエル会見で「今回の0.75％は普通ではない。次回は0.5％か0.75％だろう（1％はない）」というメッセージが出たことでリバウンド開始。月末に消費者信頼感指数などでリセッションが意識されるまでその流れを継続し続ける一か月となりました。

リセッション懸念で商品価格が下落しそれがさらに拍車をかける流れで、3.5％を伺う勢いだった米長期金利も2.8％程度まで下落。金利低下の煽りをうけてダウよりもナスダックが相対的に強い様子ですね。個人的には金利低下が逆に嫌気されるようになるのではと考えています。ハイイールド債のスプレッドは上昇傾向が継続していて、景気指標がコロナ直後以来の悪さが連発しているのと同じように2020年夏以来の水準まで上がってきました。今はバリュエーションの低下と「ちょっと景気悪くなるかも」くらいの程度ですが、商品価格が多少ピークを打っても最終製品の値上げはまだ続くし、一度上がった家賃はすぐには下がりません。 FRBが重視しているPCEは4月からピーク傾向が続いていますが、FRBはCPI全体の指標でビックリしたマーケットを忖度して0.75に変えています。そして多少景気が悪化してもインフレの鎮静化のほうを重視する方針を示しています。どこかで「FRBが助けてくれる」という期待が裏切られる時がくる気がしてなりません。需要は一度消し飛んでもFRBがコントロールできる領域ですからね。

ファンドの売買としては6月もガチャガチャしていたわけですが、それもそろそろ終わりにして今後に向けた銘柄を仕込んでいくことに集中していこうかなと考えています。先月買い始めた牧野フライス製作所はリセッション懸念を受けてすべて売却しています。ゴリゴリの景気循環銘柄を買うにはまだ早かったようです。

前回までの1-3月期決算ではウクライナ戦争後のインフレの影響はそこまで反映されておらず、ガイダンスで影響の見通しが出ていただけです。今月半ばから始まる4-6月決算でその影響が実際どうだったかということと、今年後半の景気見通しが出てくるはずです。ここをチェックしながら今後の戦略を練っていくような形になりそうです。

※ 今後の見通しと運用方針は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります